

平成15年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
----	-------	---------------	-----	------

事業コード		事務事業名	入所者の生活、指導・介助事業
根拠法令等		老人福祉法	A法令

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

②事務事業の内容

対象(受益者)	養護老人ホームの
手段	生活の指導や介助事業を行なうことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる環境作りの提供をする。

③事業の概要

項目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
延入所者数 (毎月入所者×12月)	455人 38人内訳(市内31人) (市外7人)	449人 37人内訳(市内29人) (市外8人)	492人 41人内訳(市内32人) (市外9人)

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	入所充足率	
成果指標の説明	延入所者数/延定員(600人)	

⑤事業の進捗状況

(一般 会計)

(千円)

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	82.0%
	実績	75.8%	74.8%	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	5,853	5,402	5,399
	人件費	49,578	48,702	49,518
	(人数)	6.0	6.0	6.0
	合計	55,431	54,104	56,664
財源内訳	国	12,666	12,824	14,578
	県	471	479	484
	市債	0	0	0
	その他	9,086	9,551	10,341
	一般財源	33,208	31,250	31,261

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	定員50名の施設であるが、すでに築33年を経過している居室他の設備等の現状を考慮して予算措置は41人で要求している。当初定員より入所充足率は低下しているが、高齢化による痴呆身体不自由者の増加で生活介助等日々の生活が快適に暮らせるよう工夫努力してきた。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で、入所者の生活に必要な費用を効率よく配分した。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づいているが、入所者の高齢化・病弱化により、一層の介助と手間が掛かるようになった。
必要性	2	2	最近、入所理由の中に経済的困難な高齢者が非常に多くなってきている。国の基準に基づいて職員の配置運営すると、生活介助をする人が多くて民間での運営は難しい状況である。今後の検討が必要である。
小計	9 /12 満点中	9 /12 満点中	
市民参加度	2	2	入所者の高齢化・病弱化により、手間がかかるようになっている。市民のボランティア・慰問者等の協力により、清掃・洗濯・繕い物奉仕で手助けを受けている。
合計	11 /15 満点中	11 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	適材適所に人員を配備し、今後とも入所者のより充実した介助・生活指導に引き続き努力をしていきたい。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

- ・寮母と指導員との意思の疎通を図るため、毎月1回寮母・指導員検討会を開き、入所者の処遇について改善をしてきた。
- ・入所者の高齢化・病弱化に伴い、利便性を図る意味で買い物の日を毎月2回に増やした。
- ・失禁者に対し、プライバシーを守るべき処置するための場所を設けた。

⑧今後改善すべき点

- ・入所者が全体的に高齢化・病弱化しているが、生活、指導・介助を合理的に行ない、予算の範囲内で現行の人員で対処できるようにしていきたい。
- ・高齢化に伴いトイレの洋式便器を増やしたり、又シャワー付き便器に移行することによって衛生面も考慮に入れたい。

⑨平成17年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成15年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
事業コード		事務事業名	入所者の給食・栄養事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者に食事のサービスを提供する事によって、
想定する成果	入所者に喜ばれる食事の場を提供する。

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
1日1人当たり平均単価	993円	1,006円	998円
国の示している生活費の1/2単価	860円	870円	865円
1日平均入所者数	37人	36人	41人

④成果指標

成果指標名	①	②
給食単価達成度		
成果指標の説明	1日1人当たりの平均単価/国の示している単価×100	

⑤事業の進捗状況（ 一般会計 ）（千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標①	計画	-	-	115.4%
	実績	115.5%	115.6%	-
成果指標②	計画			
	実績			
事業費	事業費	29,361	27,792	29,696
	人件費	8,263	8,117	8,253
	(人数)	1.0	1.0	1.0
	合計	37,624	35,909	37,949
財源内訳	国	8,597	8,864	10,120
	県	319	331	335
	市債	0	0	0
	その他	6,167	6,602	7,132
	一般財源	22,541	20,112	20,362

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	施設における生活をできるだけ家庭生活に近づけていくような献立や調理に工夫をこらし、老人の栄養基準量に基づいて食べやすく喜ばれる食事を計画してきた。
経済効率性	3	2	国基準の措置費の範囲内で賄費の使用削減を図りつつ豊かな食生活づくりに励んだ。
事務効率性	2	2	自分で選ぶことのできる楽しみをつくるため複数献立と食事の選択性の取り組みを検討してきたが、高齢化による痴呆等を含み聴取に時間を要したり、食事に選択メニューを忘れてたりすべての満足度を得る事の難しさを実感した。
必要性	3	3	食べることは、利用者の大きな楽しみであり、施設生活の大きな位置を占めている食事サービスを通して利用者の生活を支えていくためにも必要である。
小計	10 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	行事である花見の会により入所者の身元引受人等、ボランティアを通じ食事に関する生の声を聞いている。
合計	11 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	献立の内容も多様化を求められつつ、高齢化による病弱化も増えている。通常の食事が不可能な特別治療食も必要となっているが、あまり栄養基準量にとらわれず栄養管理一般を大きくとらえ1人1人のコミュニケーションを大切にしながら、入所者の要望等を聴き取り献立の改善に反映させてきた。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

・特別治療食（腎臓食・減塩食・カリウム減食）、きざみ食等、献立内容・調理の工夫等を実施するため給食部会を開催し検討・改善をしてきた。
・給食関係納入業者に対して給食納入時に関する注意、各材料の新鮮度合等、衛生管理面等の啓蒙を続け衛生知識の把握を呼びかけている。
・非常災害時発生に対する対処として、非常災害時の食事方法、非常食品の管理の見直しをしてきた。
・食事を提供する側において、種々の課題を給食委員会や職員のミーティングにおいて検討をし入所者に豊かで質の高い食事ができるよう食生活の改善に努力してきた。

⑧今後改善すべき点

・入所者に対する衛生管理面特に手洗いの励行を重要視していくため、施設内の（食堂・トイレ・廊下）手洗い設備の改善を検討し食中毒防止対策を徹底していきたい。
・食堂から調理室への、はえ・そ族昆虫侵入防止のため、食堂配膳台に網戸の設置をしていきたい。

⑨平成17年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成15年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
事業コード		事務事業名	施設の管理・事務事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢者福祉

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	施設の管理や事務事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる場の提供をする。

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
延入所者数 (入退所人員)	455人 (入所2人・退所3人)	449人 (入所2人・退所3人)	492人

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標の説明	入所充足率	
	延入所者数/延定員（600人）	

⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	82.0%
	実績	75.8%	74.8%	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	7,281	8,784	9,178
	人件費	12,394	4,058	4,126
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	19,675	12,842	13,304
財源内訳	国	4,497	3,456	0
	県	167	129	0
	市債	0	0	0
	その他	3,225	2,574	2,674
	一般財源	11,786	6,683	10,630

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	施設の老朽化が目立ってきている。快適な日常生活が続けられるよう改善・修繕を行ってきている。
経済効率性	2	2	国基準の措置費の範囲内で効率よく予算配分し、快適な日常生活が過ごせるよう努力してきた。
事務効率性	2	2	職員は国の「職員配置基準」に基づき配置しているが、事務は複雑化傾向にあり多忙となってきている。
必要性	1	2	高齢者福祉における社会的援助が必要な人への位置づけをしている。養護老人ホームとしてこれからの役割、機能的な利点を検討していくために必要性がある。
小計	7 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	慰問・ボランティア・奉仕に来てくれる人から、生の声を聞いたり近隣施設の行事に進んで参加し各情報収集に努めている。
合計	8 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	養護老人ホームは昭和46年開所（32年経過）し老朽化が進み建替えの時期をむかえている。入所者が生きがいを持ちプライバシーの保護をしていくためにも、蒲郡市総合計画の施策を進めつつゆったりとくつろげる施設づくりを視野に加え検討整備していきたいと考える。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の高齢化・心身虚弱化に対応するためトイレに洋便器を追加、又汚物洗い場を設置した。 ・夏期による防虫進入防止のため各居室に網戸の設置・修繕をした。

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の転倒や骨折防止のため、入浴場にスロープ・手すりの取り付け、又静養室への冷暖房施設の設置等高齢者が安全安心して生活できるよう生活環境を重視した整備を図っていきたい。
--

⑨平成17年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

平成15年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	長寿課 養護老人ホーム担当	内線等	8004
事業コード		事務事業名	入所者の看護・保健衛生事業	
根拠法令等	老人福祉法		A法令	

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	高齢福祉

②事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	入所者一人ひとりの健康を損なわないよう、過ごしやすい生活環境を整えていくことにより
想定する成果	一人ひとりの体力を把握し、個人にあった健康づくり、衛生管理面を習得させる。

③事業の概要

項 目	平成14年度実績	平成15年度実績	平成16年度計画
通院者数	1,320人	1,020人	1,080人
延入所者数	455人	449人	492人

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	入所者受診率	
成果指標の説明	延通院者数／延入所者数×100	

⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成14年度決算	平成15年度決算	平成16年度予算
成果指標 ①	計画	-	-	2.2
	実績	2.90	2.27	-
成果指標 ②	計画			
	実績			
事業費	事業費	6,129	6,523	7,119
	人件費	4,132	4,058	4,126
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	10,261	10,581	11,245
財源内訳	国	2,344	2,486	2,846
	県	87	94	92
	市債	0	0	0
	その他	1,681	1,852	2,005
	一般財源	6,149	6,149	6,302

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	入所者の健康状態を把握し、病弱者の早期発見に努め病弱者の介助・看護に努めた。
経済効率性	2	2	保健衛生面による敷地内の環境作り、各管理棟の清掃等入所者自ら参加をし保健予防及びそれらに係る経費の削減に努めた。
事務効率性	2	2	看護師の業務を把握し、介助・通院者の付き添いの手助け等スムーズに運ぶことができた。
必要性	2	2	高齢・病弱化しているため看護・介助する手間が増加してきている1人1人の健康状態を把握し早期発見に努めるために必要である。
小計	8 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	1	2	清掃奉仕、眼科・歯科検診等、身体が健全に生活できるよう、ボランティアの慰問等協力を得ている。又、嘱託医を市民病院医師から開業医に変更したため開業病院との親交・交流が深まっている。
合計	9 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	要介護者・有病者の増加に伴い、各種の病気等適切な予防や対策を看護師の基に、いっそうの注意を払うよう努めてきた。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

段差のない居室等出入口、排尿時の洋便座の設置、入所者の疾病の早期発見のため健康診断の充実、保健衛生に係る備品の購入に努めてきた。

⑧今後改善すべき点

高齢化による痴呆、身体的不自由な高齢者の身体機能の不活性のため、病弱化が増加してきているため身体的に安静できる環境の設置を検討工夫していきたい。

⑨平成17年度予算に反映する項目

入所者が安心して静養できる環境作りの一環として静養室・浴室に冷暖房設置を検討していきたい。

⑩組織、人員に関する提言

・入所者の健康状態をより把握し、病弱者の早期発見に努めていくために最小限の努力をしてきているが、緊急時の対応や処置を適格に把握していくためにも、看護師の業務を正規職員の配属を希望していきたい。

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載